

グッドバンカー社では、SRI は金融商品であり、企業の CSR は中長期的に企業の競争力、価値の増大につながるものとみなしています。ですから、当社の SRI アナリストは ESG のみならず、財務についても目配りすることが求められ、13 人の SRI アナリストのうち、財務アナリスト出身者が 5 名います。以下に、ある女性アナリストの感想をご紹介します。

私は新卒で投資信託の運用会社へ入社し、20 代はずっと財務アナリストをしていました。その後、娘を授かり、娘が働くようになるころの未来の社会をもっと良くする仕事がしたいと模索していたところ、グッドバンカー社での SRI アナリストの仕事に出会いました。

財務アナリストは、昨今の働き方改革でも課題の職種となっていますが、とてもハードワークで、私自身も昼夜を問わず、寝る時間を割いて仕事をするという働き方をしていました。それは、株式投資そのものが短期志向に偏りすぎていることの裏返しでもあると思います。

株価の短期のパフォーマンスを稼ぐため、人員の大規模リストラなど、たとえ長期的にみて、その企業の凋落につながりかねないような事象でも、目先の利益が上がるのであれば評価する（” 買い” の判断を出す）という傾向もどうしても出てきてしまっていました。しかし、その株価上昇の効果はすぐに終わるので、結果として効率的とはいえません。

SRI アナリストが分析・評価している企業の CSR 活動は、いわば未来の事業戦略への” 種まき” です。それは、企業の本来の事業戦略の基盤でもあり、それらを自社の CSR としてまとめ、社会へアピールし、さらに外部の評価を得ることは、企業が自らの事業戦略を見直し、より深く見つめ直すことにもつながります。そして、経済活動であるかぎり、市場環境全体が悪くなることで、業績に大きな打撃を受けることを避けられない時期が必ずあります。そのような時には、CSR は企業を足元から支える” 強固な地盤” としての役割を發揮するとみています。

また企業の CSR 活動の成果は、短期で表れてくるものではありません。例えば、女性の活躍が増えると、企業でマイノリティだった人たちの意見も吸い上げられるようになり、その中からこれまで考えもつかなかったようなアイデアが見つかり、製品イノベーションにつながるといった、長期の効果が期待できるのです。

このように SRI アナリストの仕事は、より長期目線で、財務と非財務のリサーチを融合することが理想であり、それはまさにアナリスト調査の” 真髄” といえる姿です。EU が 2018 年 1 月から導入する金融市場規制により、財務のアナリストがアクセスできる情報ソースが制限され、「アナリスト受難の時代」* とも言われています。しかし、SRI アナリストは調査力を極めることが求められる一方で、中長期で企業を応援するという株式投資の本来の姿への回帰にもつながるものであり、やりがいがあります。

財務出身の SRI アナリストとして、企業価値の予測のみならず、リサーチを通して、未来の社会をより

良く、平和な社会をつくっていく仕事をするべく、試行錯誤しています。

参考資料：

*日本経済新聞 2017年6月28日、29日